

紙本墨画陳希夷睡眠図 長谷川信春筆

種 別 有形文化財（絵画）
員 数 1 幅
所在地 七尾市小丸山台 1 丁目 1 番地
石川県七尾美術館
所有者 七尾市

概 要

本図は、樹下で睡眠をとる仙人を描いた水墨画である。描かれた人物は中国五代・宋時代初期の隠士陳搏^{いんしちんたん}と解される。

陳搏は、武当山^{ぶとうざん}に隠遁し占術を修め、後に太宗より陳希夷^{ちんきい}の号を賜ったが、隠遁時代、眠るたびに 1 年、あるいは 3 年も眠り続けたと伝えられる人物で、樹下において脇息^{きょうそく}にもたれ掛かって眠る様子が、どこことなくユーモラスで親しみのある作品である。

特筆すべきは、左下部に捺された、「長谷川」朱文長方形印と「信春」朱文鼎形印^{かなえ}の二印である。後者の印が捺された作品は、現在、全国で数例しか確認されておらず、信春が上洛して等伯の名称を用いるまでの 30 歳代後半頃から 40 歳代にかけての時期に制作された、数少ない作品にのみ使われたものとして、史料的にも極めて価値の高い作品である。

信春は晩年、自ら雪舟 5 代を名乗り、「等伯画説」にも信春が雪舟、等春の流れを汲むということが記されており、本図に見られる筆の流れ、墨の溜まりは、実際に雪舟の影響が看取される作品として貴重である。

また、画面全体を見ても、打ち込みの目立った独特の筆法には、狩野派の影響が感じられ、この頃の信春が一時期狩野派にも学んだ可能性が極めて高くなったことをはじめ、今まで最も不透明とされている、等伯 40 歳代の動向を知る上でも、極めて貴重な作品と言える。

このため、その文化財的価値は高く、有形文化財に指定し、その保存を図ることが必要である。

その他 七尾市指定有形文化財 平成 16 年 2 月 26 日

